

はくぶつかんの部屋 7

～市制50周年特別展にむけて～



新年度がスタートしました。昨年度は、多くの皆様に市立博物館まで足を運んでいただき、大変うれしく思っております。今年度も地域や学校と連携しつつ、魅力ある展示会や講座、教室などを行いますので、よろしくお申し込みをお願いします。

さて、今年度の博物館の展示会の目玉は、宜野湾市市制50周年および沖縄本土復帰40年をテーマとした特別展で、7月25日から一カ月間開催致します。宜野湾市は、1962（昭和37）年7月1日に誕生し、市昇格を祝って市内各地では、祝賀行事が執り行われました。市役所屋上からの花火打ち上げや祝賀パレード、市内4カ所に分かれての提灯行列をはじめ、普天間グラウンドでは「かりゆし民謡祭」やオートレース、愛知での闘牛大会など、多彩な催しで宜野湾市誕生を祝いました。市昇格から10年後の1972（昭和47）年5月15日には、沖縄がアメリカ軍からの支配から脱却し、日本に復帰しました。アメリカ世から日本世への世変わりに伴い、ドルから円への通貨交換で交換所には長蛇の列ができ、1978（昭和53）年7月30日は、人は右、車は左の交通方法の変更が行われるなど、人びとの生活も変わ

ました。

宜野湾市が誕生して50年、沖縄が本土に復帰して40年と、今年は記念すべき節目の年になります。市昇格時には3万人だった人口も今や9万人を越え、西海岸地区の埋め立てなど、昇格時と比べると街の様も大きく変わり、発展を遂げてきました。

市立博物館では、この節目を祝い、宜野湾市のあゆみをつづる特別展を開催します。そこで市民の皆様にお願ひがあります。博物館では、この特別展開催にむけて、1960～70年代の街の風景や家族、子ども連地域行事等の写真を募集しています。お借りした写真は撮影後、速やかに返却致します。また、写真以外にも東京オリンピック（1964年）聖火リレーや若夏国体（1973年）等の催しに関わった際の品々もお貸しいただけないでしょうか。市民の皆様のご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



▲市昇格の祝賀パレード（1962年）



→祝賀行事として行われた「かりゆし民謡祭」

問合せ

市立博物館 ☎870-9317

茶

ぐわーゆんたく

95

道路の壁

宜野湾市内に伊佐・喜友名と伊佐・大山・真志喜・大謝名をへて、浦添に至る通称パイプライン道路があります。パイプラインとは、正式名称は陸軍貯油施設、米軍の主要な基地間を結んだ燃料用送油線のことです。米軍施設のひとつです。

パイプラインがいつ頃敷設されたのかはつきりとはわかりませんが、1948年頃にはすでに敷設されていたようです。住民不在の中で、軍事優先、家・畑関係なく直線的に敷設されたので、大山・真志喜・大謝名は集落を分断されました。

時代を経て、いつしかパイプラインは地



↑バルブボックス（大山）1990（平成2）年鉄筋コンクリート製で、幅2.3m、高さ1.2mほどで、車両は交互に通っていました。

中に埋設され、車両も通行できるようになりましたが、管理用として数カ所にバルブボックスが路上にあり、まるで車を通らせないように立ちはだかっています。当然、交通事故が相次ぎ、また、油流出や引火爆発事故などもあり撤去要求が強く、宜野湾市では1990年に返還され、バルブボックスも撤去されました。現在、バルブボックスのあった場所は道幅が広くなっています。姿形を変え、米軍施設であった跡を残しています。



↑バルブボックス（大山）1991（平成3）年バルブボックス撤去後

問合せ

教育委員会文化課 ☎893-14430